

## 令和元年度 第1回松山地域協議会会議録

日 時 令和元年5月28日(火) 午後1時20分～3時20分

場 所 松嶺コミュニティセンター

出席委員 13名

齋藤 明 佐藤 徳康 齋藤 吉男 阿部 喜久子  
後藤 吉史 富樫 とも子 荘司 東一 佐藤 玲子  
齋藤 薫 小田 和夫 平向 邦夫 樋坂 仁  
本間 京子

欠席委員 2名

村山 安子 佐藤 均

酒田市出席者

酒田市副市長	矢口 明子 (委嘱状交付式まで)
松山総合支所長兼地域振興課長	遠藤 裕一
建設産業課長	柿崎 弘志
地域振興課長補佐兼市民係長	五十嵐 昭一
地域振興課長補佐	出嶋 亨
地域振興課地域振興主査	齋藤 圭
地域振興課地域振興係長	阿彦 求
建設産業課長補佐兼建設係長	堀 浩幸
建設産業課長補佐兼産業係長	石川 亮一

傍聴者 2名

### ◆委嘱状交付式

#### 1 開 会

○開会の言葉 遠藤支所長

#### 2 委嘱状交付

○遠藤支所長が各委員の名前を読み上げてその場に起立、委嘱状交付後に着席

○矢口副市長が委嘱状を読み上げて交付、交付後にあいさつ

### 3 自己紹介

- 名簿順に委員がその場に起立して自己紹介
- 委員の自己紹介終了後、職員が自己紹介
- 自己紹介終了後、矢口副市長退席

### 4 会長及び副会長の選出

- 会長については、一委員から小田和夫委員の推薦があり、全会一致で承認。
- 副会長については、推薦が無かったことから、委員の中から選考委員を指名して選考委員会を開催、結果、阿部喜久子委員を選考することとし、全委員に報告、全会一致で承認。

### 5 会長、副会長のあいさつ

- 会長、小田和夫委員あいさつ
- 副会長、阿部喜久子委員あいさつ

### 6 閉 会

- 閉会の言葉 遠藤支所長

【午後2時00分終了、すぐに地域協議会へ】

## ◆第1回地域協議会

### 7 議事録署名人の指名

- 議事録署名人には、齋藤 明 委員を指名
- 議長には小田会長が就任

### 8 議事日程

#### 【報告事項】

- (1) 令和元年度松山総合支所管内の主な事業について
- (2) 一般県道余目松山線の工事に係る交通規制について
- (3) その他

### 9 議事の経過

(小田会長)

はじめに、「(1) 令和元年度松山総合支所管内の主な事業について」事務局より説明をお願い

します。

(遠藤支所長、柿崎課長)

～資料に基づき説明～

(小田会長)

ただいまの説明に対し、ご質問、ご意見のある方はご発言ください。

～特に質疑、意見無し～

(小田会長)

何も無いようですので、次に移ります。「(2) 一般県道余目松山線の工事に係る交通規制について」事務局より説明をお願いします。

(柿崎課長)

～資料に基づき説明～

(小田会長)

ただいまの説明に対し、ご質問、ご意見のある方はご発言ください。

(荘司委員)

庄内橋の工事については地元としても積極的に協力したい。但し、う回路沿線の自治会には危険を避ける意味でも住民説明会を開催してほしい。今まで集落内の市道の速度制限、庄内交通バス停の移設などの安全対策に取り組んできた。また、この件については広域的なPRができないものか伺いたい。

(柿崎課長)

道路を管理する県としては今のところ説明会の予定はしていない。う回路沿線になる竹田自治会には個別に交通規制のチラシを配布する予定である。また広域的なPRといった点では県広報で周知することになっている。

(荘司委員)

地域をあげて安全対策に取り組んでいきたいと考えている。事故があってからでは遅い。そのためにも、う回路の沿線の住民には詳細についての説明会の開催を要請したい。

(柿崎課長)

この件については、県にあらためて申し入れさせていただく。

(後藤委員)

これから様々な交流事業がある。地域としてはその交流事業に力を入れている。この松山地域には入ってくるのは容易であるが、出ていくのは難しい。地域から出る場合の手立てを工夫してほしい。また、竹田地区の交通安全についてはなお留意してほしい。松岡社員の通勤による交通量もあるので対応は丁寧に願いたい。

(柿崎課長)

特に夜になると道がわからなくなるといったことがある。イベントのパンフレットなども、書き方を見直していきたい。

(小田会長)

事業主体は県であるが、県の考え方と市の考え方にズレがあるように思う。県道余目松山線改良促進松山地区協力会（以下、「協力会」という。）を早急に開催して県の考えをつまびらかにする必要があると考える。協力会に市土木課は入っているか。

(柿崎課長)

入っている。

(小田会長)

早々に協力会の会合を開催することとしたい。

ほかに無いようですので、「(3) その他」に入ります。委員の皆さんから何かありますか。

(荘司委員)

昨年3月に南部コミセンにおいて「これからの地域づくりと地域運営について」と題して、NPO法人きらりよしじまネットワーク事務局長の高橋由和氏から講演をいただいた。この中で「これからの地域づくりには新たなビジョンを策定し、住民が共有し、その計画を実践していくことが大切」とおっしゃっていた。

そこで、内郷地区でも将来の新たなビジョンを持ち、住民が参加する形をつくりたいと考えている。現在の松山小学校に、近い将来、コミセンが移転という検討もなされているが、新しいコミュニティセンターを拠点として内郷をどのような地域にしていくのか、住民の意向調査と計画づくりをスタートしていきたいと考えている。

この際、市の各部署と連携して進めていきたいと考えるが支所長の所見をお伺いしたい。

(支所長)

南部地区では平成28年度から「南部地区地域づくり推進モデル事業」に取り組み、ワークショップなどで住民同士が地域の活性化策についての話し合いを行ってきた。昨年度まで地域おこし協力隊員の導入もあり、コミセンで喫茶コーナーや居酒屋を開設するなど、いろいろな活動を行ってきたが、外部から人が入ると、新たな視点があり、地域でも盛り上がる。また、地域の魅力や資源を活かし、持続可能な地域ビジョンを取りまとめているところである。この意味でも、とても有意義な活動である。

(齋藤明委員)

この事業のおかげで南部地区でも地域づくりのあり方について、ある程度の形は見えてきた。

(後藤委員)

松山の地域資源を活用するためには今あるものに磨きをかけていく必要がある。そんな中で財政支援のないのが武者行列である。神事には公費は入れ難いといった事情があることは承知しているが、決して神事の面ばかりでなく観光振興に一役買っているので、武者行列に対して支援があっても良いと思う。また、甲冑の着付けについて、着せられる人が高齢化してきているので、後進の育成にも力を入れていかなければならない。

伝統文化を守っていくためには公費投入も必要であると考え。今年度はすでに決まっているのでやむを得ないが、来年度予算編成の折にはその件についても意識して臨んでいただきたい。

さらに、松山の宝推進事業の中で「まち割り絵図の表示事業」があるようだが、時代の流れとともに旧役場がどこにあったのかわからなくなってきているので記録に残すようにしていただきたい。

(齋藤吉委員)

山寺にも3つの神楽があるのでPRしていただきたい。

(支所長)

地域の行事等については、コミ振から情報を提供していただかないとわからないものも多い。とにかくどんどん情報を発信してほしい。

(平向委員)

山寺地区の車道・歩道の設け方について、現在の道路は交互通行になっているにも関わらず道路幅が狭い。そこで、カラーリング等により車道を狭くして歩道を広げるようにしていただけないか。参考例として酒田東高校から旧酒田商業高校の道路がそのようになっている。車道のみでは対面通行できないような狭さではあるが、実際には対面通行なので、車同士が交差する場合には歩道に乗り入れることになるが、車の方は最徐行を余儀なくされる。

児童は2学期から山寺にある松山小学校に通学することになる。朝はグループ登校であることから、声かけ隊の対応ができるが、夏休みになってプールに通うときなどは、高学年は数人ずつ自転車で行くことになるので、声かけ隊の目は届かないし、非常に危険である。

山寺地区でもこのような道路を採用していただきたいがどのように要望していくのか伺いたい。

(齋藤吉委員)

通学路の安全確保については、新小学校になった際に徒歩通学になる松嶺地区と山寺地区が一緒になって考えることである。

(小田会長)

まずは地区内で安全対策をどうするか考えては如何か。もし、要望するなら警察にということになると思う。

その他、これまで発言の無かった委員の方、何でも結構ですのでご発言ください。

(富樫委員)

道路のう回路の関係で、松岡の帰宅時間である17時から18時にかけてはかなりの交通量になるので、竹田地区は危険を伴うことになると考えられる。

(樋坂委員)

昨年度は高温や多雨の影響で、地域の大多数の農家が減収を余儀なくされた。市からの支援をお願いしたい。

(齊藤薫委員)

余目松山線の工事による交通規制は松山地域への人の出入りが多く見込まれる時期に重なっているので混乱が生じることが予想される。交通安全に配慮したしくみづくりを早急に確立していただきたい。

(小田会長)

他に無いようですので、議事を終了します。

## 10 その他

(小田会長)

事務局で何かありますか。

(支所長)

ありません。

## 11 閉 会

(小田会長)

これもちまして第1回地域協議会を終了いたします。皆さまお疲れさまでした。